

被災建造物の復旧性能評価研究委員会
H17年度 WG2「損傷評価ワーキング」 第1回議事録(案)

日時：2005年9月28日(水) 14:00～17:00

場所：(社)日本コンクリート工学協会 第5会議室

出席者：河野(幹事・記録), 小林(JR東日本), 稲熊(JR東海), 北山(首都大学), 田嶋(日大),
林(事務局), 以上6名

欠席者：岡野(大林), 田才(横国), 前田(東北)

資料

WG2-1-1 JCI - TC - 046FS 被災建造物の復旧性能評価研究委員会 参加者名簿(事務局)

WG2-1-2 被災建造物の補修補強後の耐力変形状評価研究委員会 2005年3月報告書(河野)

WG2-1-3-1 被災建造物の復旧性能評価研究委員会(WG2) 資料(稲熊)

WG2-1-3-2 RCラーメン高架橋柱の耐震補強に伴う柱と梁の接合部の耐震性能に関する研究(稲熊)

WG2-1-4 制震補強された実在鉄筋コンクリート造校舎の補強効果に関する実験的研究(北嶋)

WG2-1-5 被災建造物の復旧性能評価研究委員会 WG2 資料(田嶋)

WG2-1-6 損傷について(小林)

議事内容

1. 昨年度の活動について(WG2-1-2)(河野)

本WGを中心とした, 昨年のFS活動内容を説明した。

- 委員会全体における「損傷評価WG」の位置づけ, 「損傷評価」の目的, 現状, 目標について紹介した。

2. 資料WG2-1-3-1, 資料WG2-1-3-2(稲熊)

鉄道事業者の研究者として「損傷評価」に関する見解を述べた。

- 「損傷評価」の目的は, 外乱による損傷を受けた場合に, 列車運転再開可否の目安とすることである。
- 梁柱接合部における耐震補強の耐震性能についての紹介を行った。
- 損傷評価に関して, 鉄道・道路・港湾・タンクについては, 状況が異なるようである。

3. 資料WG2-1-4(北嶋)

- FSの報告書には, 日本建築防災協会の応急危険度判定や被災度判定, および東北大・前田委員の研究内容などを紹介するべきであった。
- 被災物の損傷指標に関しては, 技術的な裏づけがもっと必要である。
- 経済的損失も含めた将来の地震被害リスク評価が必要である。
- クライアント・テナントと構造設計者の意識の隔たりを埋める必要がある。
- 地震入力の不確実性がかなり大きいことが, 損傷予測に関する一番の問題と考えられる。

- 北島委員・岡野委員には、制震構造における損傷評価について、今後も何らかの情報提供をお願いします。
3. 資料 WG2-1-5 (田嶋)
- 「損傷評価」の目的は、「新築構造物耐震設計時における損傷予測」「既存構造物の損傷予測」「被災構造物の損傷定量化」の3つに分類されると考えられる。
 - 確率論的要素を設計行為に取り入れる努力が必要と思われる。
 - 海外の文献調査・ひび割れ計測・解析に関して、本WGに貢献したい。
3. 資料 WG2-1-6 (小林)
- 「損傷評価」の目的は、地震後の復旧性、経年変化も含めた構造物の最適化にある。
 - 評価指標が明らかでない、実験や解析の載荷方法の影響が不明である、復旧性との関連付けが薄い、などの問題がある。

以上